

社会資本総合整備計画 社会資本整備総合交付金

平成31年01月11日

計画の名称	キャスティ21イベントゾーン周辺地区都市再生整備計画												
計画の期間	平成30年度～平成30年度(1年間)								重点配分対象の該当	○			
交付対象	姫路市												
計画の目標	世界文化遺産姫路城を擁する姫路市の都心部は、古来より播磨の商業・業務・交通等の中心としての役割を果たしてきたが、近年の都心部を取り巻く環境や市民意識の変化などにより、その役割にも陰りが見られるようになってきた。そこで、本市の都心部に位置するキャスティ21イベントゾーン周辺地区において、市民の多様な交流を促進する拠点施設や、安全・安心、快適で、魅力的な都市空間を整備することにより、広域圏の中核都市にふさわしい、にぎわいとるおいに中心市街地の再生を目指す。												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	504	A	504	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H29当初		H32末
1	都心部における回遊性の向上の効果として、中心市街地における歩行者・自転車通行量を増加させる。 中心市街地通行量調査において測定した歩行者・自転車の通行量の、主要7地点における合計値。	63639人	人	87700人
2	交流拠点の形成によるにぎわい創出の効果として、文化コンベンションセンターへの来場者数を、既存施設の姫路市文化センターへの来場者数から倍増させる。 文化コンベンションセンターへの年間来場者数。当初現況地については、既存の姫路市文化センターの年間来場者数である。	362443人	人	724886人
3	デッキを通ることによる回遊性の向上の効果として、駅から文化コンベンションセンターまでの徒歩による所要時間を短縮する。 JR姫路駅から文化コンベンションセンター敷地までの、徒歩による所要時間。	15分	分	10分
4	行政と民間事業者等との連携・協働によるまちづくりを進めた効果として、JR山陽本線等の高架下空間の利用率を増加させる。 市が、JR山陽本線等連続立体交差事業で発生した鉄道高架下空間を活用している割合。	150(×0.1)%	(×0.1)%	165(×0.1)%

備考等	個別施設計画を含む	—	国土強靱化を含む	—	定住自立圏を含む	—	連携中枢都市圏を含む	—
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---

A 基幹事業

基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況			
												H30	H31	R02	R03	R04						
一体的に実施することにより期待される効果																						
備考																						
都市再生整備計画事業	A10-001	都市再生	一般	姫路市	直接	姫路市	—	—	キャストィ21イベントゾーン周辺地区都市再生整備計画事業	地域交流センター、公園、歩行者デッキ、A=7.6ha	姫路市	■					504	1.3	—			
												小計						504				
											合計						504					

交付金の執行状況

(単位：百万円)

	H30				
配分額 (a)	252				
計画別流用増△減額 (b)	0				
交付額 (c=a+b)	252				
前年度からの繰越額 (d)	0				
支払済額 (e)	15				
翌年度繰越額 (f)	237				
うち未契約繰越額 (g)	0				
不用額 (h = c+d-e-f)	0				
未契約繰越率+不用率 (i = (g+h)/(c+d))%	0				
未契約繰越率+不用率が10%を超えている場合その理由					

事前評価チェックシート

計画の名称： キャスティ 2 1 イベントゾーン周辺地区都市再生整備計画

事 前 評 価	チェック欄
I. 目標の妥当性 ①基本方針・上位計画等との適合 1) 上位計画等との整合性が確保されている。	○
I. 目標の妥当性 ②地域の課題への対応 1) 地域の課題を踏まえて目標が設定されている。	○
I. 目標の妥当性 ②地域の課題への対応 2) 必要性という観点から事業内容、整備箇所の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性 ③目標と定量的指標の整合性 1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 ④目標と事業内容の整合性 1) 目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 ⑤定量的指標の明瞭性 1) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
II. 計画の効果・効率性 ⑥事業の効果 1) 十分な事業効果が確認されている。	○
II. 計画の効果・効率性 ⑥事業の効果 2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性 ⑦計画の具体性 1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
III. 計画の実現可能性 ⑧円滑な事業執行の環境 1) 継続的な事業の展開が見込まれる。	○
III. 計画の実現可能性 ⑧円滑な事業執行の環境 2) 関係機関等との調整が図られている。	○

(参考図面)

計画の名称	キャストイ21イベントゾーン周辺地区都市再生整備計画	交付対象	姫路市
計画の期間	平成30年度 ~ 平成30年度 (1年間)		

